

諺から見たネパールの農業

島田輝男

この諺は、筆者が昭和五十二年に友人ヨシヤダブ氏と、ネパールの平野部、ジャナカプー
ル県タヌサ郡バナニヤ村で収録したものであ
る。原文はマイティリ語である。

厳しい気象条件の下で、先祖代々農業を営ん
できたバナニヤ村の人々が、その知恵と努力の
結晶を諺に残した。それがネパール農業を知る
一助となれば幸いである。

玄人百姓とは

पहिले काकरी पिछे धान,
तबरा कही पका किसान

パイレ カーカリ ピチェッ タッーン
タワラ カヒー パカー キサーン

前作胡瓜 後作稲
それをいう 玄人百姓

「乾期夏作（二月～六月）に胡瓜を作り、雨期
作（六月～十二月）に稲を作る、それこそが玄
人の百姓である」と。

胡瓜など瓜類が乾期夏作として水田前作（日
本の水田裏作に相当）で栽培されている。瓜類
は高温を好み、乾燥に耐える。このように作物
の特性を生かした多毛作化ができてこそ、本物
の百姓であるという。

また、乾期作には灌漑が不可欠で、昔は、浅
井戸や小河川を水源とした釣瓶灌漑で乾期作を
していた。その作業は厳しく、玄人百姓であつ
てこそ出来る仕事でもあった。

शेर जोती निक कर् महियानी,
उब कय बहिह आती,
तब नहि उपजय न डाक के परिह
माती

トッーラ ジョテイ ニカ カエ マヒヤー
ニ、ウチウ カエ バーンヒ アーリー、
タバ ナヒ ウバジャエ タダークケ
パリハ ガーリー

耕起少々破土丁寧、畦は高く造る
それでも不作ならダークの悪口を言え

「田畑の耕起は荒く、破土は丁寧、雨水を溜
めるための畦は高く造る、それで豊作間違いな
し。もし不作なら、ダークの悪口を言え」と。

日本では反対に、耕せば耕すほど作物が良く
育つという。これは気象環境の違いによる。

ネパール平野部の乾期後半は高温期で、鋤け
ば鋤くほど土壌乾燥が進み、作物が育たない。
破土作業を丁寧にするれば、表土が細かくなり、
乾燥によるひび割れが塞がれ、土壌水分の蒸発
が抑えられる。高畦は雨水をためる工夫であり、

何れも日本人には理解し難い農法である。
ダーク（ガーグ）とは、インド・ビハール州
からネパール中部タライ地方にかけて村人たち
に伝承されている農業聖人のことである。

適期適作の勧め

適した時期に適した作物を栽培する。これは
どこの国でも同じ、百姓仕事の基本である。
稲

अदरा धान पुनवास, उब,
नेर किसान जो नौर पूब
आद्रालार डट्टीन पुनारबासी
उकाट्टेरा किसान जिओ उओए
पूकाट्ट

稲はアドララーからプナルバシーに播け、プー
カツに播けば百姓が行く

「稲はアドララー（第六星宿六月下旬～七月上
旬）からプナルバシー（第七星宿七月上旬）
に播け、プーカツ（第八星宿七月中旬）に播
くと百姓が潰れる」と。雨期は六月から九月ま
で、田植えは雨期の初めに終わっておけという。
ひよこ豆と小麦

बना बितरा नौराना,
बिती गहुँ होय

チャナー チトラー チャウグナー、
スワティー ゲフーン ホエ

ひよこ豆チトラー四倍 小麦スワティーに播け
「ひよこ豆はチトラー（第十四星宿十月中下
旬）に播け、小麦はスワティー（第十五星宿十
月下旬～十一月上旬）に播け、四倍採れる」と。
ひよこ豆、小麦共に冬作物で、その播種適

期は十月中旬から十一月初めにかけてであるといふ。

バナナ

फर्नान केरा रोपन जाय,

मास मास फल बैसा खाय

फार्गुन केरा रोपल जाय, ज्ये,

मास मास फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

फार्गुन फार्गुन फार्गुन फार्गुन

止葉不動 どこに置こうか

「サーワン月(七月中旬)〜八月中旬)に西風が吹き、パッターダワ月(八月中旬)〜九月中旬)に東風が吹き、アッシュワソ月(九月中旬)〜十月中旬)に東北風が吹き、カールティック月(十月中旬)〜十一月中旬)にススキの止葉も動かないほど無風、その年の稲作は大豊作間違いない、粉をどこに置こうかと、百姓が悩む」と。

七月中旬〜八月中旬の西風と八月中旬〜九月中旬の東風は適度な雨を伴い、九月中旬〜十月中旬の東北風は小雨をもたらす。これは稲作にとって理想の気象である。反対に、

जब बरसे अगहनवा से,

तब धान खैरिक हुइ नौर

ज्याबा बारासे अगहनवा रो,

बा टाटून चोचोटीक फी च्या

उरा

アガハヌーワ一月雨あると水田草原となり牧場「アガハヌーワ一月(十一月中旬)〜十二月中旬)に雨が降ると稲が腐り、水田が草原となり、家畜の放牧場と化す」と。

このころ稲とは在来晩生稲であり、十一月から十二月が開花登熟期である。この時期に雨にあつと穂発芽し、稲が腐る。

同様に、「一月から二月の雨は小麦を腐らせ、牛を殺し、百姓の足に靴をつくる」といふ。

適正技術

हरिण फलाने काकरी पैगैने कपास

जाय कही किसान से बोए घनी उबार

ハリン パツラーゲ カーカリー

パイ

ゲーパイゲー カパース、

ジャイ カヒー

キサン セ

ボエ ガツニー

ウカツール

鹿が飛び跳ねる程に胡瓜 一歩一歩に綿

密植畑は「間引け」と百姓にいふ

「胡瓜などのつる性野菜は鹿が飛び跳ねる間隔に、綿などの立ち性作物は人の歩幅に掛け、密植した畑を見つけたら、その百姓に『間引け』といえ」と。そして、ばら播き畑では、

न सर मशी अरहर मास,

डेह सर बिघा बीज कपास

पात्र पसेरी बिगहा धान,

गिन पसेरी जहन मान

दुउ सेरा

メテッシー

アラハラ

マール

ス、デダ

セラ

ビガツ

ピージ

カパー

ス、

パートル

パセリー

ビガハー

ダツ

ン、

ティーン

パセリー

ジャダハン

マール

ー

ビガハー

当たり播種量はこは

きまめ

毛

つる小豆ニセラ

綿一・五セラ

五パセリー

早生・中生稲

三パセリー

晩生稲

皆が納得

「皆が納得するービガツ(六十七アール)当

たりの播種量は、こは、木豆、毛つる小豆は

ニキロワ、綿は一・四キロワ、早生・中生稲は

二十三キロワ、晩生稲は十四キロワ」と。

(しまだてるお・元サルボダヤ・アシユラム農業学校校長・元国際協力事業団派遣専門家(農業))